

今月の推薦句

山田真砂年選

山国の春じぐざくに野に山に

小見戸 実

初明り海曼茶羅のうねりかな

檜田良枝

撞くたびに鐘を出てゆく去年の闇

大坪正美

ヘッドライトのなかに初雪ありにけり

飛田小馬々

穂の色をして初刷の届きけり

滝代文平

少年の放尿散らす花石斑魚

伊藤 翠

歩かねば魂細りゆく路地すみれ

西井久美子

二筋を一筋にして春の川

中村かりん

店先の野菜の嵩も春めけり

丸山時子

大寒や玻璃に十字のガムテープ

上田信隆

研ぎたての薄刃吸ひ付く寒鯉

植松深雪

初硯いろはいろはと書きにけり

野口翠千

湯に入りて踊る卵やけさの春

高原貞夫

見えぬもの見るかに春の測量士

池田角之助

教会に休日のある梅真白

久保千恵子

宇宙食に味付のりとや冬ぬくし

司 まや

春寒や小さき祠の飯の湯気

岡本秀子

花鋏パチンと春の水の音

今井 基

水仙やにじり口よりまづ見ゆる

高田 峰

日向ぼこ専科教師の空き時間

林 恵美子

曖昧な地図を頼りや探梅行

矢代靖子

福引の当たりて少し気恥かし

瀧本 萌

春三日月慣れぬ心地の指環かな

寺田愛美

春隣鳩はビルからビルへ飛ぶ

関口敦子